

墨一色が作り出す美の世界

手描きカチン絵師

おかねみきお
岡根美貴雄さん



“名乗らず語らず40余年”

甲南町出身の岡根さんは、墨一色で表現するカチンに魅せられ、里山で密やかに描き続けてきました。

カチンの着物は大変珍しく、昨年の秋には東京の百貨店で初めての展示会が開かれ、今年5月には甲南町で作品展が催されました。

手描きカチンの魅力や作品に込められた想いについて、お話を伺いました。

■手描きカチンとは？

語源は定かではありませんが、室町時代以前からあった技法といわれています。当時は、植物のトグサを束ねて炭化させたものをカチン棒といい、それを水で溶いて染料にしていたようですが、現代では墨を使用し、小絹の反物に一本一本線を描きます。

■手描きカチンの魅力は？

織物の黒い糸と墨が溶け合う白黒のモノトーンのセンス。例えば、花を表現するときでも、花びらの全てではなく、影の部分を描きます。そうすることで、描き残した余白が輪郭として浮かび上がってきます。まさに「わびさび」の世界です。このように、全てを描ききらず、着る方の人格と重なって完成されることが魅力だと思います。

■どのような想いで作品に向かいますか？

現代では、着物といういろいろなしきたりがあり、敷居の高いイメージがありますが、長年の日本の風俗の中で育まれた、誰にでも似合う民族衣装の文化でもあります。気楽に着ていただきたいです。



元気な まちがど



1 news かふか21子ども未来会議

21世紀を担う力に

かふか21子ども未来会議の子ども議員任命式が5月30日、市役所で行われました。

この会議は、21世紀を担う子どもたちが自ら考え行動する力を引き出す機会として開催され、今年で5年目を迎えます。子どもたちは、緊張した表情を見せながら、一人ひとりが中嶋市長から任命書を手渡されました。

子ども議員たちは、来年1月に予定されている子ども議会に向け、地域の声の聞き取りなどの活動に取り組みます。



▲任命を受けた21人の子ども議員

2 news ユース・プラス・フェスティバル

心ひとつに音を奏でる

甲賀市ユース・プラス・フェスティバルが6月6日、あいこうが市民ホールで行われ、市内7中学校吹奏楽部が一堂に会し、日頃の練習の成果を発表しました。

いくつかの学校は、見せ場となるソロパートのある曲を演奏し、見事に独奏を終えた生徒には惜しみない拍手が贈られました。

フィナーレでは、各校の3年生部員による心をひとつにした合同演奏と全部員による合唱が、ホールに響き渡りました。

▼各中学校吹奏楽部員による合唱



3 news

小学生、新茶を楽しむ
給食は新茶とともに

甲賀市の特産である「茶」の消費拡大とお茶の文化伝承のため、市内の小学校では給食時などに茶葉から淹れた茶が提供されています。

出される茶は、市内で採れた新茶や煎茶、かぶせ茶、ほうじ茶、玄米茶の5種類があります。

この日の給食には、今年採れたばかりの新茶が出され、児童たちはさわやかな味と香りを楽しみました。



▶新茶の味と香りを楽しむ児童

4 news 第8回甲賀流忍者検定

めざせ甲賀流免許皆伝

甲賀流忍者検定が6月14日、忍の里プラザで行われました。

第8回となる今年は、過去最多となる129人の受験者が全国各地から集まりました。

検定は初級、中級、上級に分かれますが、初級検定は忍者コスプレによる加点があるため、多くの受験者が忍び装束で試験に挑みました。会場では、刀や甲冑を携えた本格的な姿も見られ、忍の里は熱気に包まれました。



▲検定試験に挑む受験者